総合政策研究　第16巻第1号（2013）51-66

「悪女」という表象

Representative images of "*akujo*," *femme fatale*, bad girls, or fatal women

安藤　早紀*・岩田　和男**

要約　本論は，なぜ日本語に「悪女」という言葉が存在するのか，なぜ日本人は男でなく女を「悪女」と表現したのか，その理由解明に迫ることを目的とする．そのために安藤は2012年6月に，愛知学院大学の学生257名が「悪女」に対してどのようなイメージを抱いているか，アンケート調査を行った．その結果，悪女は美人で，①髪が黒のロングストレートで化粧をしていて，②眉は細く，青い色のアイシャドウ，赤い色の口紅を塗っており，③露出の多い黒色系の服をセクシーに着こなし，手の爪は長く，明るい色のマニキュアを塗っている女，となることがわかった．眉毛，アイシャドウ，爪の手入れの質問項目の回答には，男女で有意な差がみられた．そのことから，岩田は男性の「悪女」イメージがファンタジックであることを指摘した．

しかし，このような「悪女」像は，けっして伝統的日本語表現である醜女としての「悪女」と同じではない．むしろ，フランス語の「ファム・ファタール」に由来する，極めて近代的なイメージである．それを確認した後，安藤はそのイメージの消費過程を，アニメ「ちびまる子ちゃん」のケースを用いて例証した．キーワードはアクセサリーで，悪女＝自分たちとの関わりのなさを前提にした表現と解釈した．そのことは，悪女になれない，悪女になりたくないと思っている女性が多いというアンケート結果と一致することから，岩田は悪女＝美に突出を見て，突出するのを避けたがる日本人の心性を重ねて解釈した．安藤は，その突出をさらに練炭殺人事件の被告人木嶋香苗の言う「オリジナル」「自由」という価値に結びつけ，一般女子大生の「突出すること」「出る杭になること」へのアンビバレントな意識を見た．岩田は，その木嶋香苗との重ね合わせから，騙された男の心性を探った．それは「悪女」の陰画である「良女」像にも重なるファミリー・ロマンスという幻想，ファンタジーの再確認である．

キーワード　悪女，イメージ，ファンタジー，ファミリー・ロマンス，ファム・ファタール，アクセサリー，突出，出る杭，オリジナル，自由，近代

【序論】

「悪女」をテーマにしたのは，日本語に「悪男」という言葉は存在しないのに，なぜ「悪女」という言葉が存在するのかと疑問に思ったからである．女という生き物は，もともと悪質な部分を生まれ持っている生き物なのだろうか．それとも，古くから日本に存在する男性優位社会の風潮から，女性だけが非難されてしまってきたのだろうか．なぜ日本人は女を「悪女」と表現し，その表現が今まで続く事態となったのだろうか．現在の「悪女」の意味を探り，それが昔の意味とどう違うのか比較しながら，その表象的価値を検証する．

【第１章　大学生の悪女像】

2012年6月下旬に，愛知学院大学の学生257名を対象に，「悪女」に対してどのようなイメージを抱いているか，アンケート調査を行った．その結果，68.8パーセントが悪女は美人であるというイメージを持っていることが分かった（アンケート調査　質問紙項目3参照）．また，悪女の容姿について，髪，化粧，服装，手の爪の項目に分類

*総合政策学部総合政策学科2012年度卒業生09G014　**総合政策学部　教授

して，ふさわしいイメージに関する細かい質問をした（アンケート調査　質問紙項目5～8参照）ところ，回答者の抱く「悪女」のイメージは，①髪が黒のロングストレートで化粧をしていて，②眉は細く，青い色のアイシャドウ，赤い色の口紅を塗っており，③露出の多い黒色系の服をセクシーに着こなし，手の爪は長く，明るい色のマニキュアを塗っている女，となることが分かった．面白いことに，その中でも眉毛，アイシャドウ，爪の手入れの質問項目の回答には，男女で差がみられた（Table 1～3）．

Table 1　性別と悪女の眉毛のイメージにおける多重回答

		眉毛		合計
		太い	細い	
性別	男性	12	180	192
	女性	11	54	65
合計		23	234	257

p<.05

注：▒は有意に多く，▒は有意に少ないことを示す（以下同様）．

Table 1の表で，男性よりも女性のほうが悪女の眉毛のイメージが太いと思う回答が有意に多いのは，おそらく普段細い眉毛の女性が多いからだと考えられ，その背景には，悪女＝滅多に見かけないものという考えがあるように思われる．反対に，男性のほうが悪女の眉毛のイメージが細いと思う回答が有意に多いが，それは，太い眉毛よりも細い眉毛のほうが，美容的にキレイだと思っている，すなわち，後で触れるように，男性は悪女＝美人と無意識のうちに思い込んでいるからではないかと思われる．悪女に対する女性の感じ方については，後で触れる．

Table 2はアイシャドウと「悪女」のイメージの相関を調べる表で，これによると，男性も女性も，青いアイシャドウと「悪女」を関連づける回答が圧倒的に多い．男性よりも女性に，悪女のアイシャドウ＝茶色とする回答が有意に多いが，普段から茶色のアイシャドウを使用している女性が多いため，「悪女も茶色のアイシャドウを使っていそう」と現実的にイメージしやすかったからと安藤は解釈する．岩田は，先ほどの太い眉と「悪女」の関連の有意性も併せて考察することで，「悪女」が美人のグループに属す，数は少ないが，現実的な存在であると思っている人が女性に多い，ということではないかと考える．そうすると，男性は大半が「悪女」を一種のファンタジーと捉えているのでは，とも考えられる．

Table 3によると，男性よりも女性のほうが，悪女がマニキュアを塗っているイメージが有意に

Table 2　性別と悪女のアイシャドウのイメージにおける多重回答

		アイシャドウ				合計
		青いアイシャドウ	ピンクのアイシャドウ	茶色のアイシャドウ	アイシャドウをしていない	
性別	男性	107	20	32	33	192
	女性	33	6	21	5	65
合計		140	26	53	38	257

p<.05

Table 3　性別と悪女の爪の手入れのイメージにおける多重回答

		爪の手入れ			合計
		マニキュアが塗ってる	綺麗に光らせている	とくに手入れしていない	
性別	男性	108	74	10	192
	女性	47	14	4	65
合計		155	88	14	257

p<.05

多い．マニキュアを塗ることは手間がかかり，面倒なことを考えると，悪女は爪にまで美を意識しているものと，女子学生は考えたのではないか，と思われる（安藤）．

岩田は，ここに女性の「悪女」に対する複雑な心性を読み取りたい．既に見たように，女子学生は「悪女」に，現実に存在する女性と考えるに足る属性と同時に，「青いアイシャドウ」のイメージに見られるように，現実世界に存すると考えるにはいささか突飛な属性も等しく感じているようだからである．この二律背反的属性の共存は，「悪女」という存在が，自分たちとはかけ離れたところに存在するものの，現実にありそうなものでもあると考えていることにならないだろうか．また後で触れたいが，遠い存在には違いないものの，男子学生が感じているほどファンタジックなものではなく，もう少し生身の姿を想像しているように思われるのである．

アンケートでは自由回答形式の質問として，「あなたは『悪女』と聞いて一番に誰（何）を思い浮かべますか？」と尋ねているが，女優の“沢尻エリカ”という回答が全体の約3分の1と予想以上に多かった．“エリカ様”という回答すらあった．沢尻エリカが，いかに「悪女のような女王様」という印象を私たちに与えているのかが，この自由回答からよく分かる（安藤）が，岩田は，やはりここでも，「悪女」にある特別な存在を見ようとする女子大生の心性を読み取りたい．女王様のようにふるまう「悪女」のイメージから，何もかも兼ね備えた，意地の悪い女王様がみんなをいじめる姿が想像できるからである．したがって，残る問題はその実在性の程度ということになると，岩田は考える．

また，沢尻エリカの次に多かった回答は，モンキー・パンチ原作の漫画『ルパン三世』（1967）に登場する峰不二子（回答数19）だが，このイメージの選択からも，悪女にファンタジックな要素を見る傾向がかなり強いことが窺える．男女比率が不明なため，この選択から男女の差異を見ることはできない．

【第二章　「悪女」の意味と女子大生との距離】

今まで述べてきた「悪女」像は，すべてルックス上のイメージであるが，それと広辞苑にある「悪女」の意味との間には，実は大きな違いがある．日本語の「悪女」は，決して美人とは言えないのである．

【日本語の「悪女」と femme fatale】

広辞苑によると，「①性質のよくない女，②顔かたちの醜い女」とある．角川古語辞典では，「顔かたちの醜い女」となっており，さらに角川国語辞典には，「美人よりもみにくい女のほうが愛情やしっと心が強いということ」とも書かれている．

沢尻エリカ[1]

峰　不二子[2]

[1] http://cdn.mkimg.carview.co.jp/minkara/userstorage/000/003/948/363/fc163e24df.jpg
[2] http://www.hiratasoko.co.jp/DVC00070.JPG

美醜の違いはあるものの，昔から日本語の「悪女」は見た目の話であったわけだ．

ちなみに英語では“bad woman”とか“wicked woman”と言い，フランス語では“femme fatale”と表現する．英語の場合，“bad”や“wicked”に「悪い」や「邪悪な」という意味があるため，当該の表現は「悪い女」や「邪悪な女」と訳すことができるが，問題は仏語の“femme fatale”である．この語は英語にもなっていて，小学館ランダムハウス英和大辞典で引いてみると，「あやしいほどの美人，美貌で男を誘惑する女，妖婦，男たらし」とある．したがって，前章で確認した，私たちの持つ「悪女」のイメージに最も近い言葉が“femme fatale”だといえる．というか，現在の悪女のイメージはこのフランス語のファム・ファタルに拠っているわけだ．

ところで，美人であること，男を誘惑するほどの美貌を持っている女になることは，よく，「女であれば一度は憧れること」と言われるが，そういう存在に，本当に女は憧れているのだろうか．そのことについて，マンガに登場する「悪女」をとおして考察していく．

【アクセサリーとして用いられる「悪女」】

堀江珠喜の『男はなぜ悪女にひかれるのか』に，「悪女」という言葉が，いわばアクセサリーのように，あるいはワンポイントのアクセントとして用いられる（7）とあるが，子どもに人気のあるテレビアニメの中でも「悪女」という言葉がアクセサリーとして用いられている例がある．

フジテレビ系のアニメ『ちびまる子ちゃん』（毎週日曜日夕方18時から18時30分）第806話「ハマジ，新しい靴が欲しい」の巻（2011年4月17日放送）において，『ちびまる子ちゃん』の主人公，さくらももこ（以下まる子）は自分のことを「悪女」と言うのだ．

話の内容は次のようなものである．まる子の学校内でクラス対抗のサッカー大会が行われることになり，クラスの男子は校内のサッカー大会に向けて，放課後にサッカーの練習を行う．クラスの男子のほとんどがサッカーのスパイクを履いて練習をしているのだが，まる子のクラスメイトである浜崎憲孝（以下ハマジ）は，普段から履いている運動靴で練習に励んでいた．しかし，思ったようにうまくプレイできないハマジは，自分もサッカー用のスパイクを買ってもらって，スパイクを履いて練習したらうまくプレイできるのではないかと思い，母にスパイクを買ってくれるよう頼んでみるが，駄目だといわれる．ある日，商店街のスポーツ用品店のディスプレイに飾ってあるサッカーのスパイクを眺めているハマジに，たまたま商店街へ買い物に出かけた，まる子とまる子の祖父であるさくら友蔵（以下友蔵）が偶然出会い，ハマジはまる子に，お母さんにスパイクを買ってもらえないことを話す．次はその時の会話である．

ハマジ：うちのかあちゃん，スパイク買ってくれないんだ～
まる子：だったら，おじいちゃんに頼んでみなよ．まあ，みててよ
まる子：ねえ，おじいちゃん？
友蔵　：何だい？まる子
まる子：お母さんったら，おねえちゃんには匂いつき消しゴム買ってあげたのに，まる子には買ってくれないんだ．まる子も匂いつき消しゴム欲しいよ～
友蔵　：それはかわいそうに．よし，おじいちゃんが買ってやろう
まる子：わーい！おじいちゃん大好き！

ハマジ：さくら・・・お前「ワル」だな・・・
まる子：それをいうなら「悪女」と言ってよ

まさに，堀江の言う「悪女」という言葉が，いわばアクセサリーのように，あるいはワンポイントのアクセントとして用いられている．

「悪女」という言葉をアクセサリーとして用いる，とはどういうことか．アクセサリーとは，自

分自身を着飾るために身につける装飾品であり，キレイなものである．アニメの中でまる子は自ら悪女と言い換えたから，まる子が用いた「悪女」という言葉のアクセサリーは，友蔵に匂いつき消しゴムを買うよう誘導した「ワル」を隠すことのできるような，よりニュアンスのよい言葉だったのではないか．もしかするとまる子は少し悪女になりたいと思っていた，のかもしれない（安藤）．

岩田が補足する．悪女をアクセサリーとするということの本質は，言うまでもなく，その「悪女」の影響が，たとえばまる子の本質に影響を与えない程度に，その悪女の属性を身に帯びる，ということであろう．そうであるならば，アクセサリーの要諦は，中味を変えないことにあると言わざるをえない．岩田には，この語がフランス語に由来することが気にかかる．というのも，「悪女」のアクセサリー化とは和魂洋才の変奏といえそうだからだ．もしこの捉え方が正しければ，ここから見えてくるのは，いかに「悪女」に実在の可能性があろうとも，「悪女」＝自分たちとの関わりのなさを前提にした表現ということになる．言い換えるならば，ありうべき「日本人女性」からの逸脱への恐怖である．

その意味で，愛知学院大学の女子学生65名を対象にアンケート調査で「私は悪女になれる」，「私は悪女になりたい」という項目を六件法で調べた結果は大変興味深い．というのも，自分は悪女になれると思っておらず，悪女になりたいとも思っていない女性がほとんどだという結果が出たからである（Table 4 ～ 5）．

Table 4 ～ 5は悪女が“美人”と思うか，“美人でない”と思うか，のどちらに回答したか，その結果と，自分が「悪女になれる」あるいは「悪女になりたい」と思うかどうかという質問の回答との間の相関を比較した表であるが，悪女のイメージが美人か美人でないかということは，私が「悪女になれる」あるいは「なりたい」と思うかどうかとの間には，何ら有意な相関が生じなかった．この結果から，女性は「悪女」に対し消極的であるということが分かる．そこから見えてくるのはやはり，突出することへの恐怖なのである（岩田）．

また，アンケート対象となった女性は，悪女をめったに見かけない存在と見なしているらしいと前に指摘したが，この悪女に対する消極性をそこに重ねて考察すると，少なくともアンケートに答えてくれた総合政策学部の女子学生たちは，自分たちを美人とは思っていないこともわかる．日本人の自己評価が低いのはつとに有名な話だが，見た目の「美」についても，そのことは当てはまるのかもしれない．美も突出なのだ（岩田）．

【悪女の存在】

女性は，悪女の存在をどのように見ているのだろうか．唯川恵の『いっそ悪女で生きてみる』に，

傲慢で自信たっぷりで，横柄で，自分のほしいものは何としても絶対手に入れる．

できるなら，こんな悪女たちとは関わらずにいきてゆくのが賢明だ．

でも，内心では，違うことを感じている自分

Table 4　悪女の美人イメージと悪女になれるかどうかにおけるｔ検定

		N	平均値	標準偏差	t 値	
私は悪女になれる	美人	44	1.86	1.27	-0.98	n.s.
	美人ではない	20	2.20	1.28		

Table 5　悪女の美人イメージと悪女になりたいかどうかにおけるｔ検定

		N	平均値	標準偏差	t 値	
私は悪女になりたい	美人	44	1.86	1.11	0.05	n.s.
	美人ではない	20	1.85	1.09		

もいる．

ああ，彼女たちって何て魅力的なのだろう．

嫌いなのに目が離せない．無視したいのに興味が尽きない．腹立たしいのにどこかで拍手を送っている．

たとえ，世の中のすべての女性に嫌われても，この「魅力」を失わない限り，彼女たちは女の関心を一手に引き受け，悪女として君臨し続けるだろう．（108）

とあるが，もしかすると私もアンケート対象者も，悪女になれるともなりたいとも思っていないのだが，心の中では，唯川の言うように，悪女の存在を腹立たしいと思いながらも，どこかで拍手を送っているのかもしれない（安藤）．岩田の意見は既に述べたとおりである．

では，逆に男性は悪女に出会いたいと思っているのだろうか．愛知学院大学の男子学生191名に対しておこなったアンケート調査で，「私は悪女に出会いたい」，「私は悪女に騙されない」という項目を六件法で調査してみると，悪女に出会いたいと思ってもいないし，仮に出会ったとしても，悪女に騙されないと思っていることがわかった．先ほどの悪女に対する女性の意識の結果（Table 4～5）においても確認できたように，男性，女性共に，悪女を自分たちとは無関係な存在と考えているのである．しかし，悪女のイメージが美人であるという103名の男性に比べ，悪女のイメージが美人ではないという45名の男性は，もっと悪女に騙されないと思っているということも分かった（Table 6）．

Table 6の表から読み取れるように，悪女のイメージが美人だと思う男性は，自分は悪女に騙されると考えている者がやや多く，悪女のイメージが美人でないと思う男性は，自分は悪女に騙されないと考えている．このことは，美人と出会うことがいかに非現実なことだと男性は捉えているかを示していると考えられないだろうか．彼らの「悪女」のイメージがファンタジックなものとなることの，また別の反映のように岩田には思える．

それに対して，安藤は，これから見るように，悪女が美人なのか美人ではないかのイメージの違いにより，自分が悪女に騙されるか騙されないかの回答に差が生じることは，それとは違った意味で重要なポイントであると考える．

【第三章　現実に「毒婦」と呼ばれた女】

←木嶋佳苗被告[3]
（高校の卒業アルバムから）

“平成の毒婦”と呼ばれた木嶋佳苗という女がいる．さいたま地裁の判決で，2009年に東京都青梅市の会社員寺田隆夫さん（当時53），千葉県野田市の無職安藤健三さん（同80），東京都千代田区の会社員大出嘉之さん（同41）を練炭自殺に見せかけて殺害したと認定され，他の詐欺罪なども含め起訴された10件すべてを有罪とされた女である．

Table 6　悪女の美人イメージと悪女に騙されるかどうかにおけるt検定

		N	平均値	標準偏差	t値
私は悪女に騙されない	美人	103	3.39	1.68	-2.57 **
	美人ではない	45	4.13	1.47	

**p<.01

[3] http://www.47news.jp/CN/201204/CN2012041301001060.html

2012年4月14日の朝日新聞朝刊の「死刑，間接証拠の重圧，裁判員，悩んだ100日間　連続不審死，木嶋被告に死刑判決」によると，

> 木嶋被告は公判で，複数の男性との交際や豪華な暮らしについて赤裸々に語り，最後には「生き直したい」と涙を見せた．男性は「どういう人か結局わからない気がした．出来事だけでみると，悲しい感覚の人なのかなと思いました」．

とある．また，朝日新聞紙記者との面会時の報告には

> 「（自分の主張と）ことごとく逆の結果になり，かなりびっくりしました．正直言って残念というより，驚いた」．木嶋被告は死刑判決を受けたあと，さいたま拘置支所で朝日新聞朝刊記者と面会し，「真実でないことが認定され，罪にされた」と訴えた．

とある．さらに，記事を引く．

> 判決宣言から約3時間後．木嶋被告は面会室に姿を見せた．約15分間，記者の目を見据え，終始落ち着いた様子で質問に応じた．
>
> 法廷で裁判長は主文の宣告を後に回し，認定内容の説明から始めた．「主張が対立していたところがどう認定されるのか気になった」ため，冷静に聴き入ったという．
>
> 被告が複数男性と同時に交際していたことを裁判長は「普通の価値観を持った男性と結婚するには大きな障害」と位置づけた．木嶋被告は「他の人と違うことが歓迎されない．私がこだわってきた『オリジナルであること，自由であること』が受け入れられないし，高く評価されないんだなと思った」と話した．
>
> こうした主張について木嶋被告は，判決前に記者に寄せた手記で，生い立ちを振り返りながら「普通に生きていくことを諦めた」と説明．交際していた男性が「私の空洞を埋めてくれることによって，何とか毎日をやり過ごしてきました」と記していた．（後略）

注目すべきは，「オリジナルであること，自由であること」が受け入れられないと言っている，木嶋佳苗本人の弁である（安藤）．オリジナルであるから世間からも特別な目で見られ，自分では普通のことであると考えていることが注目され，さらに悪女だと言われ世間に騒がれてしまう構図だ．しかし，世間から注目されることや，自由奔放な態度が，唯川も言っているように，私たち女からすると「魅力的で興味が尽きない」ということにもなるのだ（安藤）．

岩田がここに見たいものは，言うまでもなく，突出することが美へと通じるところに起こる，ある転倒である．木嶋が言う「オリジナルであること」とは，有体に言えば「他と違うこと」であり，それが「自由であること」と結びついていることからも容易に想像がつくように，何か反抗，抵抗の源泉となるべき体制からの逸脱を強く連想させる表現なのである．したがって，木嶋が言葉通りに行動しようとすれば，その行動は傍から見ればたえず制度からの「逸脱」であったはずなのであり，その「逸脱」が，倒錯的に「美」を連想させたとしても，驚くにあたらないだろう．

北原みのりの『毒婦．木嶋佳苗100日裁判傍聴記』には，2012年1月10日から同年4月13日までのおよそ100日間に渡る裁判の傍聴記が記されている．北原は法律的なことよりも，できるだけ法廷の空気や，木嶋佳苗の様子を書くことを心がけ裁判の記録を書いたが，同書の中にこういう文がある．

> 誰もが彼女の容姿に色めきたった．どうしてこんな容姿で，男たちを次々に騙せたのだろう．もし彼女が美人であれば問われなかったようなことが，まるで大きな問題のように扱われ報道された．
>
> 佳苗だけではない．被害者の男性たちも，こ

の事件の主人公だった．亡くなった41歳の男性は，プラモデルが趣味だった．彼が亡くなる当日まで書いていたブログは事件発生当初，様々なメディアで何度も紹介された．

「実は41歳のトマちゃんは婚活中でして……今日相手のご家族と会うのです」

私は彼の最後のブログのこの一節を，そらで書ける．そのくらいに，繰り返し繰り返し報道されたブログだ．どうかもうトマちゃんを放っておいてあげて下さい，と願うほど，被害者男性が曝されていた．「女性経験がないから」「オタクでモテナイから」，だから「あんなブスにひっかかった」とハッキリ書くメディアもあった．

ただ恋をし，結婚を夢見ただけなのに，加害者が不美人だと，被害者まで貶められるものなのかと，あっけにとられた．（3-4）

写真を見ればわかるように，木嶋佳苗は確かに美人とは言えない．どちらかと言えば，日本語の「悪女」に近いが，次の文を読むと，どうも木嶋佳苗が“femme fatale”に思えて仕方がなくなってくる．その文とは，北原が記録した法廷での佳苗の様子や周りの雰囲気に関する描写である．

驚いたのは休憩時間に，縄を持つ若い女性拘置所職員に一言二言話しかけ，「よろしく」っていう感じで両手を差し出していたことだった．手を軽くひねるようにして差し出す姿は，どこか色っぽさが漂う．縄につながれる動作が優雅な被告人なんていただろうか?!　また，佳苗のそばに5人の男性弁護士がついているのだが，パソコンを打ち，額に皺をよせ，頻繁に「異議ありっ！」と突っ込む男たちは，佳苗を全力で守る取り巻きのようにすら見えてくる．なかでも髭の生えたイケメン弁護士と休廷中に満面の笑みで話していた佳苗は“楽しそう”だった．無表情の佳苗が笑うと，パーッと柔らかさが増す．とても感じのいい女，だ．（18-19）

スカート丈はたいてい膝上5センチ．節電のせいか足下が冷える法廷で，佳苗はベージュの網タイツで登場することもある．裁判員を含め紺や黒の服を着た人が多い法廷で，佳苗の薄着と網タイツは，ヒロインそのものだ．あまりに堂々とした姿に，縄を持つ女性拘置所職員がおつきの人に見えてくるほど．

連日の裁判でも，佳苗に疲れた様子はない．休廷中には弁護士ににこやかに話しかけ，拘置所職員と何か言い合っては，腰を折り曲げ歯を見せて笑うこともある．裁判中，話がもたついた時などは退屈するのか，指3本をタラッタラッタラッとファイルの上などでタップする．得意のピアノを弾いているのだろうか．佳苗の頭に流れている曲は，何だろう．（56-57）

この二つの引用例が喚起する木嶋佳苗のイメージは，「明るくお洒落でいい女」である．Femme fataleといえば「美貌で男性を誘惑し，最後は男を破滅に導く宿命の女」であるはずなのに，メディアで“あんなブス”だと騒がれるような女に，なぜ男性は騙されてしまったのだろうか．というか，「ファム・ファタール」木嶋は，上掲の男性たちや被害者本人の男性たちには，どう映って見えたのだろうか．その点で，被害者男性に興味深い共通点がある．佳苗に総額約450万円を貢いだ男性Y氏（当時46歳）について北原はこのように書いている．

「なぜ振り込んだのですか？」
と尋ねた検事に，Y氏は，
「結婚式の費用よりは安いかなと思って」
と答えていたが，実際にはY氏は出会って間もない佳苗に，心から惚れてしまっていたのだろう．佳苗はY氏に「2人で家のローンを返していこうね」と話し，一緒に暮らした3日間，Y氏のために何品も料理をつくり，母を失ったばかりのY氏の心を優しく癒したのだ．（51）

Y氏は佳苗を信じていたのだ．姉に反対され，警察に佳苗の存在の忠告をされて，Y氏はより意地になり，佳苗を守るのは自分だけだ，という思いを深めてしまったのだろう．翌日，さらに佳苗に200万円を渡してしまっている．

2人の生活は「幸せだった」と，佳苗が逮捕された直後，Y氏は雑誌のインタビューに答えていた．夜は別の部屋で寝ていたけれど，佳苗は優しく自分の世話をしてくれていた，朝にはホットケーキをつくってくれ，夜には何品もテーブルに並んだ．楽しい時間だった，と．(52-53)

また，千葉県の自宅の火事で亡くなった安藤建三さん（当時80歳）については，

安藤さんの父親は著名な画家で，家には父親の絵画が何枚か飾られていたのだが，その絵がある日ごっそりなくなったこともある．実際には佳苗が持ち出し（佳苗は安藤さんからもらったと主張），他の男性に売りつけようとしていたことが分かっているが，この時ですら「絵が盗まれた！」と騒いだ安藤さんが疑ったのは佳苗ではなく，自分の息子だったという．(79-80，いずれも下線は引用者)

「尽くしてくれる女」幻想とでも言えばいいだろうか．まるで演歌の中にいる「女」のように，自分のためにいろいろと心砕いてくれる（ようにみえる）「女」である．岩田は，本論において再三再四，男が抱く「悪女」像にファンタジーの要素があることを指摘してきたが，実は「良女」像だって，ファミリー・ロマンスの枠で縁取られたファンタジーなのだ．

安藤は，男性は悪女にあまり出会いたくなく，自分は悪女に騙されないと思っており，女性は悪女にはなりたくはなく，なれるとも思っていないというアンケート調査結果を，この木嶋佳苗の事件と重ねて見ることができる，と主張する．

Y氏や亡くなった安藤建三さんや他の被害者男性は皆，木嶋佳苗を悪女だと思ったことは一度もなく，むしろ木嶋佳苗を自分の家族よりも家族のように，自分を優しく世話してくれた女神のように思っていた（ファミリー・ロマンス）．被害者男性だけでない．木嶋佳苗も同じように，自分を悪女とは思っていない．「普通の女性にはない自由奔放さが私の魅力．一般であることとか，フツーであることは考えたことはなかったです」(102)，「私は普通の女性とは違うと言われてきました．一般の女性のようには，生きられないと薄々感じていました．最初から勤めようとは思いませんでした」(105)．「男性を喜ばせたくて」(133) 嘘をつく．木嶋佳苗は自分の個性を生かし男性を喜ばせてあげる，自分は誠実な女だと思っていた，というから，まさに「演歌」の歌詞の中の女である．これが「毒婦」と呼ばれた女と毒婦に騙された男の現実である．

【第四章　理想と現実の差から生まれる「悪女」】

鹿島茂の『悪女入門ファム・ファタル恋愛論』には，マノン・レスコーやカルメンなど8人の，それぞれ全く異なった性質を持っている“femme fatale”が分析されている．そして，“femme fatale”と出会った男はみんな破滅の道に突き進む．アンケート調査では，鹿島の『悪女入門』に登場する8人の“femme fatale”の性格をもとに，悪女の性格についての調査も行った．悪女は「人なつっこい性格である」，「あっさりした性格である」，「常に流行を気にしている」，「一人の時間が好きである」，「相手に合わせることが得意である」，「男性に従順である」，「家庭的である」，「男性に犯罪をさせる」，「男性の財産を破たんさせる」，「男性の友人関係を壊す」，「男性の家族関係を壊す」，「男性の地位を破たんさせる」，「男性を束縛する」，「暴力をふるう」，「他の女に嫉妬する」，「既婚者の愛人がいる」の16項目を六件法で質問した．すると，ほぼどの項目も男女で同様の回答傾向であったのに，唯一男女の回答に差が見られたのが「男性に

Table 7　性別と悪女は男性に従順かどうかにおけるｔ検定

		N	平均値	標準偏差	t 値
男性に従順	男性	190	3.05	1.55	-2.46　**
	女性	65	3.58	1.43	

** p<.0 1

従順である」という質問項目であった（Table 7）.

表から分かるように，男性は“悪女は男性に従順ではない”と考えているのに対して，女性は“男性に従順である”と考えているのである．男性と女性では「男性に従順」という点について，「悪女」のイメージに違いがあるのだ.

ちなみに，「男性に従順である」の質問項目以外の回答がどのような結果になったか，『悪女入門ファム・ファタル恋愛論』に登場する“femme fatale”8人の中から，マノン・レスコーをとりあげて眺めてみる.

【マノン・レスコー】

アベ・プレヴォ著の『マノン・レスコー』は，“femme fatale”を描いた文学作品としては最初のものといわれている．マノン・レスコーと，将来有望な人物であるシュヴェリア・デ・グリュとが出会うのは，乗合馬車の止まる宿屋である．偶然の出会いから始まって，最終的に，シュヴェリア・デ・グリュは，マノンのために家族と友人と全財産を失い，殺人まで犯してしまう．このマノンの性格としては，「常に流行を気にしている」，「相手に合わせるのが得意である」，「男性に犯罪をさせる」，「男性の財産を破たんさせる」，「男性の友人関係を壊す」，「男性の家族関係を壊す」，「男性の地位を破たんさせる」が挙げられるが，男女の値による違いは以下のとおりである（Table 8 ～ 14）.

Table 8 ～ 14の表から分かるように，男女の回答に差は見られなかった．しかし，平均値は，どの項目も男性よりも女性のほうが値が低い．安藤は，このことを重く見て，男性ほど女性は悪女の性格を悪女だと思っていないということではないだろうか，と解釈する.

岩田は，やはり，先ほどの従順に関する項目の男女での回答の差異に注目して，それを木嶋香苗のケースに重ねて考えたい．とりわけ男性が「男性に従順でない」という属性を悪女に見ようとする傾向は，その陰画である「良女」の属性が「男性に従順」となるはずであることを示しており，事件の結果で見ると「悪女」と見える木嶋が，事件進行時に関わった男性たちの目には「良女」と映っていたことを裏づける．有体に言えば，従順の演技をすると，男性の目は曇るのである．まさにファンタジーの面目躍如，というところだ.

【「悪女」というイメージの存在】

女には“誠実な女でいたい”という理想がある．だから，アンケート調査の結果で見たように，実際に悪女になりたいとも，なれるとも思っていないのである．木嶋佳苗，然りである．“Femme fatale”すなわち「悪女」とは，『悪女入門』にあるように，フィクションなのである．男にも“誠実な女であってほしい”という理想があり，それゆえに，たくさんの男性が木嶋佳苗に騙され，お金を貢ぎ殺害事件に巻き込まれたりする．ところが，アンケートの男子学生たちは，“俺は悪女に騙されない”と思っている．それが幻想に対する男の現実である．安藤は，このことから，男女それぞれの理想と現実の差が悪女の存在を生み出し

Table 8　性別と悪女は常に流行を気にしているかどうかにおけるｔ検定

		N	平均値	標準偏差	t 値
常に流行を気にしている	男性	190	4.12	1.52	0.56　n.s.
	女性	65	4.00	1.44	

Table 9　性別と悪女は相手に合わせることが得意かどうかにおけるｔ検定

		N	平均値	標準偏差	t 値	
相手に合わせることが得意	男性	190	3.93	1.78	0.15	n.s.
	女性	65	3.89	1.74		

Table 10　性別と悪女は男性に犯罪を犯させるかどうかのｔ検定

		N	平均値	標準偏差	t 値	
男性に犯罪をさせる	男性	190	3.98	1.51	.93	n.s.
	女性	65	3.78	1.28		

Table 11　性別と悪女は男性の財産を破たんさせるかどうかにおけるｔ検定

		N	平均値	標準偏差	t 値	
男性の財産を破たんさせる	男性	190	4.61	1.32	.22	n.s.
	女性	65	4.57	1.16		

Table 12　性別と悪女は男性の友人関係を壊すかどうかにおけるｔ検定

		N	平均値	標準偏差	t 値	
男性の友人関係を壊す	男性	190	4.44	1.39	1.00	n.s.
	女性	65	4.26	1.22		

Table 13　性別と悪女は男性の家族関係を壊すかどうかにおけるｔ検定

		N	平均値	標準偏差	t 値	
男性の家族関係を壊す	男性	190	4.12	1.53	1.20	n.s.
	女性	65	3.86	1.43		

Table 14　性別と悪女は男性の地位を破たんさせるかどうかにおけるｔ検定

		N	平均値	標準偏差	t 値	
男性の地位を破たんさせる	男性	190	4.02	1.52	.43	n.s.
	女性	65	3.94	1.29		

てしまうと結論する．まさか自分の女が悪女なんかであるはずはないと思っていたのに，後々考えてみると，実は悪女であった，ということが起る．理想と現実の落差が，悪女の存在をいっそうひきたて，安藤が言うように，「宿命の女」を生むのかもしれない．では，岩田はどう結論しようか．やはり，フィクションの強度と言うしかないだろう．幻想なくして男は生きられない，ということだろう．

ただ，女は，そこ，すなわち幻想の地平にだけ悪女を置くのだろうか．木嶋の例ではわからない，「演技」では説明できない，また別の「悪女」像がありそうだ．それが，悪女の性格に関するアンケートでの男女の回答の差異に関係するようにも思う．岩田はその可能性をときどき指摘はした（53参照）が，本論で結論を得ることはできなかった．以後の宿題としたい．

【引用文献】

堀江珠喜『男はなぜ悪女にひかれるのか』，平凡社新書，2003年．

唯川恵『いっそ悪女で生きてみる』，朝潮文庫，2007年．「死刑，間接証拠の重圧，裁判員，悩んだ100日間　連続不審死，木嶋被告に死刑判決」，朝日新聞朝刊，2012年4月14日．

北原みのり『毒婦．木嶋佳苗100日裁判傍聴記』，朝日新聞出版，2012年．

鹿島茂『悪女入門ファム・ファタル恋愛論』，講談社現代新書，2003年．

資料：アンケート調査　質問紙

平成24年6月

この調査は、調査対象者が抱いている悪女のイメージを調査するためであり、本研究以外で回答を使用することは致しません。

以下の質問にお答えください。よろしくお願い致します。

愛知学院大学総合政策学部総合政策学科

09G014　安藤　早紀

【質問】

1．あなたの学年は？　（　　）年

2．あなたの性別は？

どちらかに○をつけて下さい。　（　男　・　女　）

3．悪女は美人だと思いますか？

当てはまる数字どれか一つに○をつけて下さい。

とてもよくあてはまる	当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない	とても当てはまらない
1	2	3	4	5	6

4．あなたは「悪女」と聞いて一番に誰（何）を思い浮かべますか？

（有名人、キャラクターなどの名前で可）

（　　）

5．悪女はどのような髪形をしていると思いますか？

【髪の長さ】【髪の色】【髪型】の項目から一つずつ選んで○をつけて下さい。

【髪の長さ】　ロングヘア　　セミロング　　ショートヘア

【髪の色】　黒髪　　金髪　　茶色髪　　白髪

【髪型】ストレート　　パーマをかけている　　髪を結んでいる　　髪を結んでいない

6．悪女の化粧のイメージはどう思いますか？

【全体】【眉毛】【目】【口】の項目から一つずつ選んで○を付けてください。

【全体】　化粧をしている　　化粧をしていない

【眉毛】　太い　　細い

【目】　青いアイシャドウ　　ピンクのアイシャドウ
　　茶色のアイシャドウ　　何もしていない

【口】　赤い口紅　　ピンクの口紅　　紫の口紅　　口紅を塗っていない

7．悪女はどのような服装をしていると思いますか？

【露出】【色】【着こなし】の項目から一つずつ選んで○をつけて下さい。

【露出】　露出が多い服　　露出が少ない服

【色】　黒系　　白系　　赤系　　青系　　黄系

【着こなし】　セクシー　　キュート　　クール

8．悪女の手の爪のイメージはどうですか？

【長さ】【手入れ】【色】の項目から一つずつ選んで○をつけて下さい。

【長さ】　長い爪　　短い爪

【手入れ】　マニキュアが塗ってある　　綺麗に光らせている　　何もしていない

【色】　明るい色　　暗い色　　普通の色

裏面もあります

悪女の性格や性質についてどういうイメージを持っていますか？
当てはまる数字どれか一つに○をつけて下さい。

	とてもよくあてはまる	当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない	とても当てはまらない
９．人なつっこい性格である	１	２	３	４	５	６
10. あっさりした性格である	１	２	３	４	５	６
11. 常に流行を気にしている	１	２	３	４	５	６
12. 一人の時間が好きである	１	２	３	４	５	６
13. 相手に合わせることが得意である	１	２	３	４	５	６
14. 男性に従順である	１	２	３	４	５	６
15. 家庭的である	１	２	３	４	５	６
16. 男性に犯罪をさせる	１	２	３	４	５	６
17. 男性の財産を破たんさせる	１	２	３	４	５	６
18. 男性の友人関係を壊す	１	２	３	４	５	６
19. 男性の家族関係を壊す	１	２	３	４	５	６
20. 男性の地位を破たんさせる	１	２	３	４	５	６
21. 束縛をする	１	２	３	４	５	６
22. 暴力をふるう	１	２	３	４	５	６
23. 他の女に嫉妬する	１	２	３	４	５	６
24. 既婚者の愛人	１	２	３	４	５	６

質問 25～26 は、女子学生のみ回答して下さい。

当てはまる数字どれか一つに○をつけて下さい。

	とてもよくあてはまる	当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない	とても当てはまらない
25. 私は悪女になりたい。	1	2	3	4	5	6
26. 私は悪女になれる。	1	2	3	4	5	6

質問 27～28 は、男子学生のみ回答して下さい。

当てはまる数字どれか一つに○をつけて下さい。

	とてもよくあてはまる	当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない	とても当てはまらない
27. 私は悪女に出会いたい。	1	2	3	4	5	6
28. 私は悪女にだまされない。	1	2	3	4	5	6

質問は以上です。

ご協力ありがとうございました。

Abstract: The aim of the present paper is to clarify the reasons why the Japanese language has had the word "*akujo*" and why the word "*aku*" has been applied only to women. Ando surveyed the questionnaire about what images 257 Aichi-Gakuin students had concerning "*akujo*," in June 2012. The result is that "*akujo*" is pretty, and her typical image is that she 1) wears long hair black and straight with full-fledged facial make up; 2) wears her eyebrow thinner, with any shade of blue eyeshadow and red lip makeup; 3) wears sexy dark dresses which have a lot of exposure and long nails with bright-colored manicure. The answers on those makeup items are significantly different between the male and female students. Hence Iwata interprets the male image of "*akujo*" as something to do with fantasy.

Those "*akujo*" images, however, are not identical at all with the traditional expression "*akujo*" meaning ugly women. Rather it is a very modern version of image probably derived from the French word "*femme fatale*," which is exemplified by the previous research. In order to examine to what extent this image is consumed, Ando uses a TV animation example named "*Chibi Maruko-chan*." Her keyword is "*accessory*," which reminds us that there is no relevant social relation between "*akujo*" and the ordinary people. This is concordant with another result of the questionnaire: most of the female students do not want to be "*akujo*." Iwata interprets this as one of the typical Japanese characters: they do not want to be special or extreme, and they like to hide themselves behind others in a group.

keywords: *akujo*, image, fantasy, family romance, femme fatale, accessory, being special, being extreme, being free, modernity